

竹 中 大 工 道 具 館

NEWS

未 来 へ つ な ぐ 、 匠 の 技 と 心

Takenaka Carpentry Tools Museum News Letter

Vol. 30

2014 | Winter-Spring



新たに建設される竹中大工道具館：緑に囲まれた庭園からエントランスを臨む

CONTENTS

Information **新館・移転について**

Exhibition 海外特別展

The Thinking Hand

Tools and Traditions of Japanese Carpentry

News **研究紀要第25号のご案内**

Exhibition 東京企画展

日本の面影—エバレット・ブラウンの湿板光画で迎える旅—

Column **道具よもやま話**

Seminar **「技と心」セミナーのご案内**

2014年10月、新館が新神戸駅前にオープンします

1984年に大工道具をテーマとした博物館として神戸市中山手に開館して以来約30年。来館者数延25万人。常設展をはじめ企画展、講演会や出張授業などを通して、多くの方々に親しまれ、またその支えを受けながらここまで歩んできました。このたび当館は、設備の老朽化と展示・収蔵スペースの不足を解消するため、2014年10月に新神戸駅付近の竹中工務店ゆかりの地に移転し、新たな一步を踏み出すことにいたしました。現在、新たな建物の建設ならびに常設展示の一新を鋭意進めています。新しく生まれ変わる竹中大工道具館に、どうぞご期待下さい。

INFORMATION

新館・移転について

「つなぐ」建築へ



〔上〕館内から見る中庭の風景：六甲山の麓に広がる豊かな自然が目に飛び込んできます。〔下〕鳥瞰パース：存在感を抑えた和風屋根が緑の中に点在する風景をつくり出します。

建築概要

規模構造	地下2階、地上1階／鉄筋コンクリート造・鉄骨造
建築面積	479㎡
延床面積	1,852㎡
施設内訳	地上1階 出入口、多目的ホール、ショップ、事務室 他 地下1階 展示室、倉庫 他 地下2階 展示室、木工室、ライブラリー 他
建設設計施工	株式会社竹中工務店
展示設計	株式会社乃村工藝社

人と自然をつなぎます

新館の建設地は、神戸・六甲山の麓に残る“都市の中の森”といえる環境にあります。建物は地上1階、地下2階として存在感を抑え、樹木の伐採を最低限に留める配置とし、既存の茶室とあわせて和風の屋根が緑の中に点在する風景をつくりだしています。敷地内外からは、背後に聳える六甲山の眺めをはじめとした、緑豊かな自然を楽しむことができます。ご来館の方々の憩いの場となるような、落ち着いた空間を創出します。

伝統と革新をつなぎます

ものづくりの技と心をより身近に感じていただけるよう、建物の内装には、大工や木工職人、左官、瓦師などの職人の技を取り入れています。また同時に、最先端の建築技術へも積極的にチャレンジし、限界の細さを追及した鉄骨構造や、木造で構築する大空間ホールなど、過去から現在に至る技の数々を現地で実際に感じられる空間となっています。

「五感に響く」展示へ



「より深く、よりわかりやすく」

手仕事にふれる機会が減った現代では、道具をどのように使うのかという理解が難しくなっています。そこで新しい展示では道具を使用する状況をコンパクトに再現。使い方が直感的に理解できるようになります。また解説を補足する映像・音声システムや、実際に触って確かめることができるハンズオン展示も大幅に追加。目だけではなく、耳や手触りなど五感を使って身近に理解を深めることができるようになります。

「建築」と「人」の展示を追加します

道具を使ってどのようなものを生み出してきたのか、そこには工匠たちのどのような技と知恵が込められているのか、という疑問にも応えるべく、「実物大の建築」と「工匠の技と心」についての展示を新たに追加します。中でも目玉となるのは高さ7mを超える唐招提寺金堂組物の実物大模型。先人の技に思いをはせるとともに、木組みの精緻さを間近にご覧いただけます。そのほかにも茶室構造模型や鍛冶工房の再現など特別な展示品を多数用意します。



〔上〕B1F展示室：左手吹き抜けに見えるのは目玉となる唐招提寺金堂組物の実物大模型。右手は工匠の技と心を伝える「棟梁」ゾーンの様子。〔下〕1F多目的ホール：企画展や講演会等のイベントを開催。現代の職人技でつくる木造の大天井がやわらかな空間を演出します。

ミュージアムショップを新設します。

「木・道具に親しむ」をコンセプトに、木の温もりや大工道具を身近に感じられるような、当館ならではのグッズを展開します。当館発行の刊行物も従来どおり販売します。

体験型イベントを拡充します

子どもから大人まで楽しめる 木工室を新設します

鉋削り体験や小学校への出張授業など、「宮大工がいる博物館」というユニークな特色を活かした臨場感あるプログラムが好評です。そこで館内には最大40名が利用できる木工室を新設し、初めて大工道具に触れる子どもたちから手仕事に興味のある大人まで、幅広い年齢層の方々が楽しめるプログラムを提供します。木工作家によるワークショップや、道具の手入れ教室などの開催を予定しています。またクラス単位での利用も可能となり、学校団体の受入れにも力を入れていきます。



B2F 木工室：木工教室等、様々な体験プログラムを実施します。

大人から子どもまで好評な「鉋削り体験」

ボランティアを募集します！

当館では、ボランティアの方々に博物館を支える活動をお手伝いいただいています。今回は木工室での工作体験などをお手伝いいただく「ワークショップボランティア」と、常設展示の解説を行う「解説ボランティア」を募集します。「人が好き、大工道具が好き、木工が好き」な方のご応募をお待ちしております。



常設展示解説の様子

出張授業の様子

〔活動内容〕

- ワークショップボランティア：木工室での工作体験や小学校へ出張授業などでの指導と補助
- 解説ボランティア：常設展示および企画展の展示解説

〔活動時間〕

- ワークショップボランティア 9:30～16:30
- 解説ボランティア 10:00～16:00

〔特典〕

- ①竹中大工道具館入館無料（企画展を含む）とします。
- ②当館の新規刊行物を差し上げます。
- ③当館主催のセミナー等に優先的にご参加いただけます。
- ④当館研究スタッフとの交流の機会及び勉強会を設けます。
- ⑤木工室での貸教室を無料で利用いただけます（要予約）。

〔費用支給等〕

公共交通機関を利用した実費（上限2,000円）と昼食代800円を支給します。また、当館にて「兵庫県ボランティア活動保険」に加入します。

〔応募資格〕

- ①18歳～80歳（採用年4月1日時点）の健康な方。
 - ②ボランティア活動や博物館の活動に興味・関心・熱意を持ち、来館者とのふれあいを大切にしたいとお考えの方。
 - ③神戸市またはその近郊にお住まいの方で、徒歩または公共交通機関を利用して竹中大工道具館まで通える方。
 - ④大工道具の取り扱いや木工に慣れている方。（ワークショップボランティアのみ）
- ※募集の詳細については当館HPをご確認ください。
※2014年9月頃からボランティア向け研修を行います。
※手入れボランティアの募集は現在行っていません。

移転について

竹中工務店ゆかりの地へ移転します

新館の建設地は大正年間に合名会社竹中工務店の本店があった所です。明治35年(1902)、現在竹中大工道具館がある神戸市中山手に竹中藤五郎神戸支店の社屋を新築。その後、合名会社となって大正3年(1914)に当地に移転し、約10年間、事業拡大の礎を築きました。今回、このゆかりの地に移転の運びとなりました。

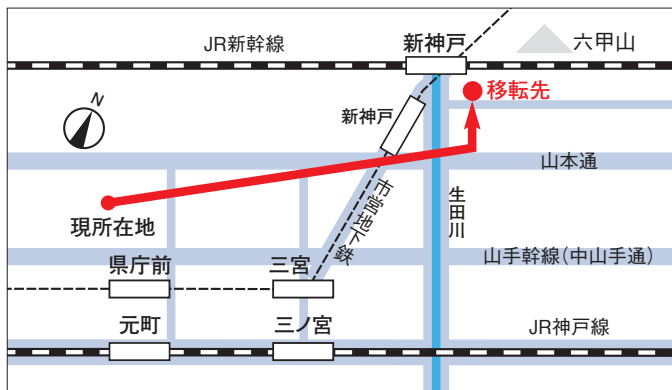
移転先住所

〒651-0056 兵庫県神戸市中央区熊内町7-5-1

主なアクセス

山陽新幹線 新神戸駅 中央改札口より 徒歩約3分

市営地下鉄 新神戸駅 北改札口より 徒歩約5分



現施設 閉館のお知らせ

移転・リニューアルの準備にともない、2014年5月18日より現在の施設は閉館させていただきます。

EXHIBITION

海外特別展

The Thinking Hand

Tools and Traditions of Japanese Carpentry

日本の大工は、古くから手仕事を大切に、ものづくりをすることで知られています。この度、日本の大工道具一式が当館からハーバード大学へ寄贈されることを受けて、現地で大工仕事を紹介する小規模な展覧会を開催することになりました。道具を中心に、



会場内に設置予定の茶室構造模型(実物大)

継手模型、木材の削り面、建築模型などの資料を、映像を交えて紹介します。また一昨年の「数寄屋大工」展で好評だった茶室の実物大模型を、現地で組み立てて展示します。

【会 期】2014年1月15日(水)～3月25日(火)

【会 場】ハーバード大学CGIS南棟(アメリカ・マサチューセッツ州)

【共 催】ハーバード大学デザイン大学院、ハーバード大学ライシャワー日本研究所

NEWS

研究紀要第25号のご案内

当館スタッフならびに館外の研究者による大工道具・建築技術に関する論文集です。

今号は下記の3編を掲載します。(3月20日発行予定)

『竹中大工道具館研究紀要』第25号
(A4版、500円)

①石社修一

「現代鍛冶技法の保存調査報告その2
—〔舟弘〕 銘・船津祐司の鑿製作」

②崔ゴウン

「韓国における大工道具研究の現況」

③李暉

「中国北京故宮の修繕組織における大工道具の標準編成」



EXHIBITION

平成26年度東京企画展

日本の面影

—エバレット・ブラウンの湿板光画で迎える旅—
Echoes of Tradition

江戸時代や明治の日本では、樹木が水を吸い上げ、その養分が枝に流れるように、脈々と文化が伝わっていました。その頃の日本では、匠たちがつくり上げた作品だけでなく、道具そのものにさえ芸術が宿っていたのです。

今回の展覧会では、匠たちや道具に潜む「日本の面影」を、エバレット・ブラウン氏が19世紀の写真技術「湿板光画」で写し出します。現代にいきづく日本の面影を追い、ものづくりに宿る魂とは何か、エバレット氏が当館所蔵の道具、各地の名匠たちや建築物と対話を重ねた足跡をご覧ください。

〔会 期〕2014年1月30日(木)～3月31日(月)

〔会 場〕ギャラリーエークウッド(竹中工務店東京本店1階)

<http://www.a-quad.jp/>

〔開館時間〕10:00～18:00(最終日は17:00まで)

〔休 館 日〕日・祝日

〔入 場 料〕無料

〔主 催〕公益財団法人 竹中工務店

〔企 画〕公益財団法人 ギャラリーエークウッド



湿板光画家

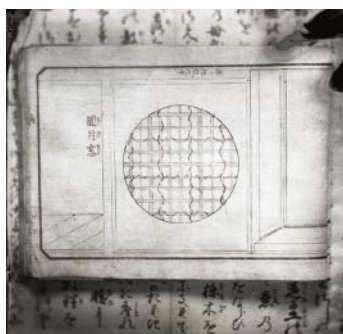
エバレット・ブラウン

Everett Kennedy Brown

1959年ワシントンD.C.生まれ。アメリカで文化人類学、日本・中国で代替医学などを学び、世界の六大陸60ヵ国以上を旅し、取材を続ける。1988年からは日本に定住し、伝統の知恵に根ざした暮らしを提案するブラウンスフィールドを営みながら、深く日本文化を探求する。



棟梁墨掛姿を刻む墨壺



江戸時代の大工雛形本



鑿鍛冶の工房風景



熟練の鉤鍛冶



千代鶴是秀の鉤刃「嵯峨の秋」

〔関連イベント〕アーティストトーク 日本の面影を迎える物語

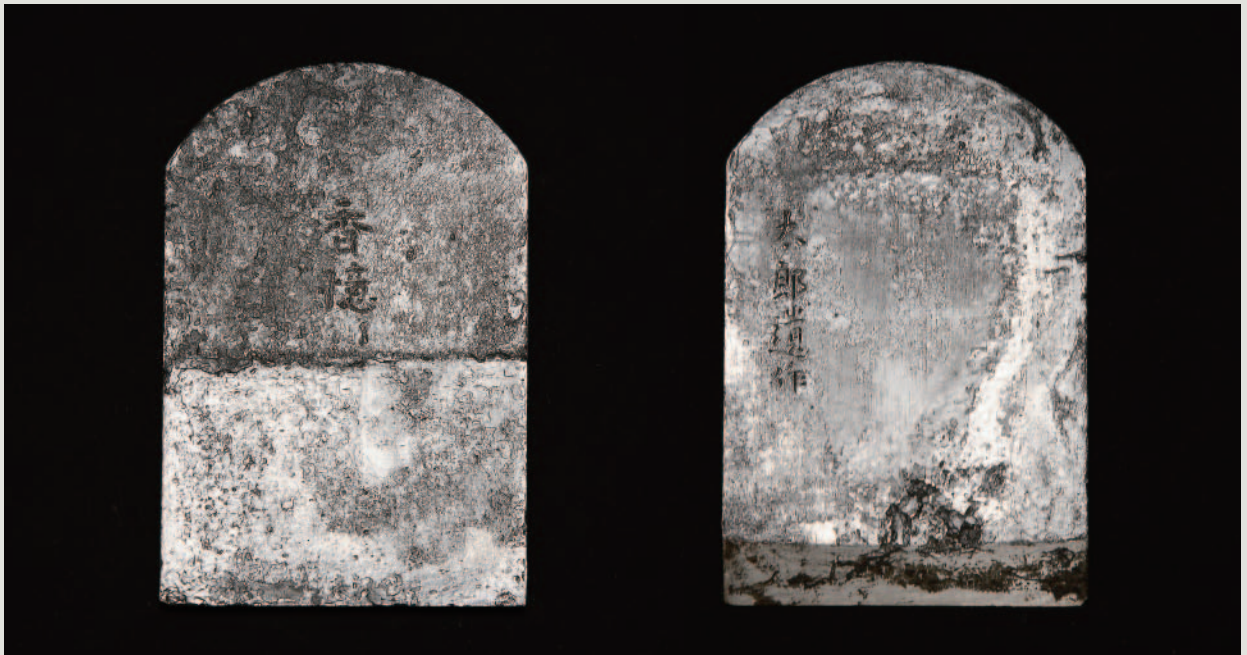
〔講 師〕エバレット・ブラウン、近藤誠一(前文化庁長官)

〔日 時〕2014年3月14日(金) 18:30～20:30

〔場 所〕竹中工務店東京本店2階Aホール(東京都江東区新砂1-1-1)

〔定 員〕先着120名、参加無料

〔申 込〕ウェブサイト(<http://www.a-quad.jp/exhibition/event.html>)で受付



道具よもやま話 ~收藏品紹介~

千代鶴太郎遺作 香憶

鍛冶の名工・千代鶴是秀には、二代目を継いだ太郎という実子がいた。昭和8年、太郎は27才という若さで自ら命を絶った。そのため、太郎やその作品には謎が多い。18才の頃から是秀の元で鍛冶修行に励んだ太郎は、既に処女作となる鉋刃はつちぎり「初契」(当館所蔵)を鍛え、「江戸熊」と呼ばれた名人大工・加藤熊次郎に認められるほど早熟な技術習得を果たしていた。

その太郎が鍛えた「運寿」うんじゅう銘の鉋が多く遺されている。太郎自身が作ったのは300枚程といわれ、是秀作の半値で売られたため、「半値で入手できる千代鶴鉋」としてよく売れた。実は太郎の没後も、是秀が「運寿」銘の鉋を作っている。是秀自身は追善供養として数十枚程度を作った。さらに、太郎没後に湧井商店がほかの鍛冶に代作させた鉋刃の一部を、焼入れしてまで是秀は制作を続けた。そして、その後も独占的販売権を持っていた湧井商店の采配で、「運寿」の制作が受け継がれた。そのため、ほかの

鍛冶による代作は多く目にするが、太郎自身や是秀による真作は稀である。

ところで当館の收藏品には、この「初契」と「運寿」のほか、「香憶」銘をもつ鉋がある。その背面には「太郎遺作」とあり、銘はいずれも是秀の手によって切られている。是秀と親しく、「運寿」銘の鉋を販売し続けた湧井商店が窮地に立たされた際、擁護にまわった道具屋仲間の幸田守親氏こうだもりちかがながらく所有していたものである。しかし、どのような経緯でこの「香憶」銘の鉋が作られたのかは謎に包まれたままである。

「遺作」とあるが、太郎本人が自分で刻むものではない。太郎が失踪した際、仕事場には作りかけの鉋刃が20数枚残されていた。後継を失った落胆による1年間の休業状態の後に、是秀はそのほとんどを「運寿」として仕上げた。この「香憶」も、太郎の没後に是秀自ら仕上げたものではないだろうか。香る太郎の記憶。是秀の想いが宿る作品である。

「技と心」セミナーのご案内

大工道具と建築技術の専門家ならびに当館スタッフが最新の研究成果や知見をご紹介しますセミナーのご案内です。

セミナー参加申込み方法

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
 ※受講案内ハガキ・メールは締切日以降に発送します。
 ※締切日以降は電話にてお問い合わせください。

ホームページから申込み

当館ウェブサイト (<http://dougukan.jp>) セミナーページの申込みフォームをご利用ください。

※携帯メールアドレスはご利用になれません。

[申込み人数]

セミナー[64] 1フォームにつき1名様のみ。同伴者欄にご記入いただいても受付はいたしませんので、予め承ください。

セミナー[65] 1フォームにつき2名様まで(ご本人ならびに同伴者1名)

往復ハガキで申込み

[返信用裏面]

- ①セミナー番号②お名前(フリガナ) ※セミナー[65]のみ参加者全員分
- ③生年月日・性別 ※見学会のみ。旅行保険申込に必要
- ④郵便番号・住所⑤電話番号 ※見学会は当日連絡のつく番号

[返信用表面]

- ・宛先に申込者の郵便番号・住所・氏名を記入。
- ・裏面は未記入のこと。

[申込み先]

〒650-0004 神戸市中央区中山手通4-18-25
 竹中大工道具館「技と心」セミナー係

[申込み人数]

セミナー[64] ハガキ1枚につき1名様のみ。同伴者をご記入いただいても受付はいたしませんので、予め承ください。

セミナー[65] ハガキ1枚につき4名様まで

[64] 2014年3月15日(土)(締切2014年2月21日)

見学会「三木の鍛冶場を巡る」

古くからの産地として栄えてきた全国屈指の金物のまち、兵庫県三木市。刀鍛冶の技術を受け継ぐ鉋鍛冶の「常三郎」、切れ味を追求した本焼本造りの鋸を作り続ける「カネジュン」、昔ながらの炭焼入れを行う数少ない鑿鍛冶の「錦清水」の鍛冶場を見学させていただきます。播州三木打刃物の製造工程を間近に見ることのできるまたとない機会となります。

見学先:常三郎・カネジュン・錦清水

開催時間:9:00~17:30(予定)

※集合・解散場所等の詳細は受講案内にてお知らせします。

定員:20名

参加費:2,000円(バス代・旅行保険料込み、昼食代別)

[65] 2014年4月26日(土)(締切2014年4月11日)

伊勢神宮式年遷宮の造営工事を終えて

昨年10月に行われた伊勢神宮の式年遷宮はまだ記憶に新しいことと思います。20年ごとに行われる造営工事は、木造建築技術の継承のかたちとしても非常に興味深いものですが、その内実はなかなか知ることが出来ません。今回は、神宮技師として造営工事に携わられた宇津野氏をお招きし、造営工事の意義や実情についてお話いただきます。

講師:宇津野 金彦(神宮式年造営廳造営部)

開催時間:13:30~15:00(13:00開場)

会場:神戸市教育会館大ホール

定員:200名

参加費:無料(当館見学の場合は入館料必要)

ACCESS 来館のご案内

開館時間 9:30~16:30(入場は16:00まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

年末年始(12月26日~1月7日)

入館料

	個人	団体
一般	300円	250円
大・高生	200円	150円
小・中生	100円	50円
障がい者手帳をお持ちの方及び付添者1名	無料	
65歳以上の方	100円	

※団体は20名以上 ※その他各種割引あり

交通案内

▷JR・阪急・阪神「三宮駅」徒歩18分

▷JR・阪神「元町駅」徒歩10分

▷地下鉄「県庁前駅」徒歩5分

▷新幹線「新神戸駅」タクシー10分

駐車場4台(普通車)あります。

連絡先

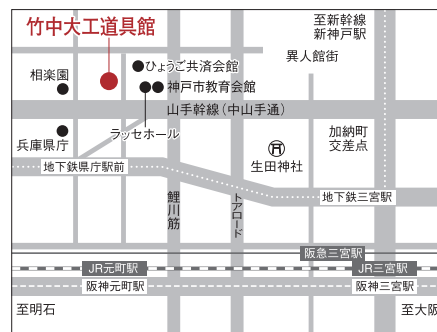
〒650-0004

神戸市中央区中山手通4-18-25

TEL 078-242-0216

FAX 078-241-4713

URL <http://dougukan.jp>



※現施設は2014年5月18日より閉館いたします

※CGは計画案です。出来上がりとは異なる場合がございます。

※本内容は変更になる場合があります。

最新情報は、ウェブサイトにてご確認ください。

本誌の無断転写・転載・複製は禁じます。©2013 Takenaka Carpentry Tools Museum

竹中大工道具館NEWS 30号

2014年1月20日発行

編集・発行:公益財団法人竹中大工道具館

印刷:神戸新聞総合印刷

TAKENAKA
 CARPENTRY
 TOOLS
 MUSEUM



公益財団法人 竹中大工道具館